

放送部「声」講習資料（海部編）

【基礎練習】

（ 2 0 1 8 0 5 0 1 ）

氏名_____

放送部の皆さん。こんにちは。

放送部では「声」を使います。

自分の、そしてみんなに認められる「声」を育てましょう。

1. まずは腹式呼吸

ロングトーンではゆっくりおなかがへこむように。

短いブレスではお腹がリズムよく出たりへこんだりするよう。

同性の部員に確認してもらいましょう

横に寝て、上に座布団を当てておなかの動きを確認してもらいましょう

できるようになったら、壁に寄り掛かって、発声

発声するときはウエストを少し緩めましょう。

体力トレーニングや筋トレも適宜行いましょう

2. 共鳴する

声は喉だけで発声するものではありません。

体全体を共鳴させて発声するのです。

まずは、口の中でハミングさせて、響きを確認しましょう。

鼻に人差し指と中指で鼻を押さえて、音程をいろいろ変えて、振動する場所を探しましょう

これがあなたにピッタリの声の高さです。

次に、体をリラックスさせて、足は肩幅に開いて、少しだけ前に重心を置いて立って、発声します

体全体が響く発声を心がけましょう

よく響く「倍音」が出れば成功です

評価は「第1声で決まる」と言っても過言ではありません。

3. 基本は上下読み

上から下へ。これが基本。でもカクンと下がる「エレベータ」読みはダメです。

「エスカレータ」のように少しずつ下がる技を身につけましょう。

4. 「読む」のではなく「伝える」

放送は、「伝える」ことが目的です。独りよがりの「読み」では通用しません。

いつも「聞いてくれる人」のことを意識して練習しましょう。

そのために、自分の読みは、必ず録音してチェックしましょう

発声の前に・・・体の緊張を取りましょう。

<ロングブレス>

- ① 肩甲骨を締めて、「ゲー」「パー」×30
- ② 顔の横で息を吸いながら「ゲー」。吐きながらその手を上に伸ばす。左右×2
- ③ ②の横曲げ。左右×2
- ④ ③の下の手を逆方向に。左右×2
- ⑤ 手をお腹周りにあてて吸う。吐きながら左手を右横方向に伸ばしてお腹をひねる×2
- ⑥ 肩甲骨を閉めて⑤ ×2
- ⑦ 足を閉じて両手を顔の横に上げて吸う。吐きながら手を下げながら片足を上げる。左右×2
- ⑧ ⑦の手をもっと下に持っていく。 左右×2
- ⑨ 両足をそろえて、肩甲骨を締めて吸う。吐きながら手を上げながら、つま先立ちする。×2
- ⑩ かかとをつけて、手を重ねて思いっきり上にあげながら吸う。この位置で吐く。10カウント×5
- ⑪ 足をクロス。吸いながら両手を上げて肩甲骨を締めて上を向いて吐く10カウント。左右×3

<言いにくい言い回し>

30秒ずつ、鏡で自分の唇の形を確認して練習

☆（準備運動）舌を頬の内側でぐるぐる回す。

- ①あいうえお いうえおあ うえおあい えおあいう おあいうえ あえいうえおあお
- ②アオアオアオ
- ③ウイウイウイ
- ④エオエオエオ
- ⑤かみかめかま みか めか まか
- ⑥ナタダナ タナダ ナダラカ タナダ
- ⑦まめまめ だだちゃまめ まるまめ
- ⑧らりるれろ りるれろら るれろらり れろらりる ろらりるれ られりるれろらろ
- ⑨ダゾザド ドザゾダ
- ⑩タタダラ
- ⑪レロレロレロレロ
- ⑫レルラレル
- ⑬ララリリルルレレロロ
- ⑭ラダレデロド ダラデレドロ
- ⑮レロラリルラレルリロ
- ⑯ラノナロ ロナノラ クリロラクリロナ
- ⑰パラピリプルペレポロ ラパリピルプレペロポ
- ⑱さらしりするせれそろ らさりしるすれせろそ

0. ラジオ体操

1. 立ちストレッチ(8 カウント) ※足元から順に上へ進みます

- ① 足首を回す
- ② 腰に手を当てて片足を前に出して腰を落とし、両足の平を地面につけて、ふくらはぎを伸ばす
そのまま、腰を落とす。
- ③ もも上げ
- ④ 腰に手を当てて左右にして内またを伸ばす・うしろにそらし、腹筋を伸ばす
- ⑤ 腰を回す。右回し。左回し。8 の字回し
- ⑥ 手を前に組んで、伸ばし、肩甲骨を伸ばす
- ⑦ 手を後ろに組んで、伸ばし、胸を開く
- ⑧ 首・左右・前後・回し（首が太くならないようにあまり熱心にはやらないこと）
- ⑨ 軽くジャンプしてリラックス

2. 「呼吸」を知る

- ① 足を肩幅ぐらいに開いて立ち、手を軽くおなかに充てて呼吸をする。
- ② おなかがあまり動かず、胸が動いているようなら胸式呼吸、おなかが動いていれば腹式呼吸
- ③ 腹式呼吸を繰り返す、さらに下腹部まで息をためるようになる。
- ④ 思いっきり壁を押しながら「ハッ」と声を出す。
- ⑤ その時、下腹部に力を感じるはず。そこが「丹田」
- ⑥ この丹田に息をためる。
- ⑦ さらに、「胴体の最下部」から「丹田」、「おへそのあたり」、「お腹の周り」、「胸」、「肩」、まで息をためる

3. 呼吸体操

- ① 正しい姿勢で立って、少し前に重心を乗せる。息を吐く時、横隔膜を動かす。リズムよくおなかを出したり引っ込めたりする。
- ①メトロノーム 80 で次のカウントで限界まで息を吸い、次のカウントではき切る s と z （2回×2 ずつ）
a) 4-4 b) 4-1 c) 1-4 d) 1-8 e) 1-5 (止める) -8
f) 1-16 g) 1-24 h) 1-32 i) 1-40 1-60 1-100・・・
- ②. 声帯の位置を確認する。(ノドボトケのあたり)
- ③. 低い声から高い声に移動してノドボトケの上下を確認する。※ . あくびの時、喉が広がることを確認して、その形で練習する。
- ④. 口を縦にしっかり開けて普通の高さ「ア」×10、高め×10、低め×10
このとき発声と同時におなかを引っ込ませて横隔膜を動かす。
※わからない人は別の人に後ろから手をおなかに添えてもらって確認する。
- ⑤. 口を横にしっかり開いて「イ」×10、高め×10、低め×10
- ⑥. 口をスムーズに動かすために、「ブルブルブルブル・・・」。これを低い音から高い音に移動する。
- ⑦. 舌をスムーズに動かすために巻き舌で「るるるる・・・」をする。これを低い音から高い音に移動する。
(札幌ラーメン・札幌ラーメン・札幌ラーメン・・・) あまりやりすぎないように。

4. 座ってストレッチ

- ① 二人で向かい合わせで足を伸ばして広げて座り、手を握り合う。
- ② 一人が引っ張り一人が前屈。交代。
- ③ 足をそろえて座り、一人が背中から押す。次に足を 90 度ぐらいに開いてすわり足の方に押す。
- ④ 足を押さえて腹筋×8
- ⑤ 一人で足を伸ばして座る。
- ⑥ 片足を組んで、組んだ方から振り返って後ろを指さす。足を変える

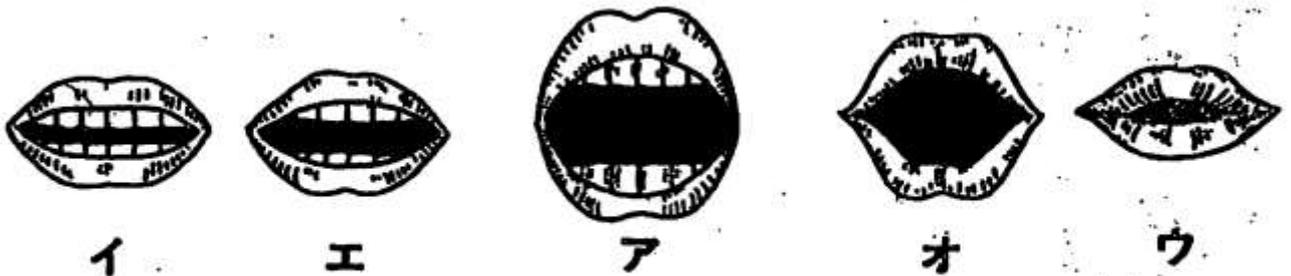
5. インナーマッスルを鍛える

※「腹筋を割る」ことではありません。体の中の腹筋を鍛えて深みがあって張りのある声を育てます。

- ① 這い這いのポーズから、右手だけ前に伸ばす。左手だけ、右足だけ伸ばす、左足だけ伸ばす（×10）
- ② <フライングドッグ>右手と左足を伸ばす（10秒）。伸ばして縮める（×10）。
右足つま先を浮かせる（10秒）
- ③ 左手と右足を伸ばす（10秒）。伸ばして縮める（×10）。左足つま先を浮かせる（10秒）
- ④ 這い這いから膝を浮かせて、体がまっすぐになるようにキープ（10秒）
- ⑤ 右足をアップ（10秒）。左足をアップ（10秒）。
- ⑥ <プッシュ&ターン>
一回腕立てをしてから、左手を上を伸ばして体を開く（10秒）。右足を体に近づける（×10）。
- ⑦ 一回腕立てをしてから、右手を上を伸ばして体を開く（10秒）。左足を体に近づける（×10）。
- ⑧ 這い這いから膝を浮かせて、体がまっすぐになるようにキープして右手左足を伸ばす（10秒）。
- ⑨ 左手右足を伸ばす（10秒）。
- ⑩ カエル倒立（20秒）

朝練 メニュー

1. 立ちストレッチ
2. 呼吸体操①
3. 生田式発声法
4. ロングトーン
5. 「言にくい言い回し」30秒ずつ



田代晃二 「新版 言葉の使い方」1962, 創元社より

6. 寝てストレッチ（4+4の呼吸）

- ① 仰向けに寝て、足をのびし、手をおなかの上に置く
- ② 自然な状態で呼吸をしておなか上下するのを感じる（×8）
- ③ 吐いて、吸って、今度はお尻・丹田・おなか・胸・肩まで息をためる（×8）ヒップアップで呼吸！！
- ④ 片足（次両足）を胸まで抱いて、呼吸。足を変える。（×8）手を頭の上に伸ばし足も延ばす。太ももを手で押さえて、足を上に伸ばす。（×8）手で足の親指をつかむ。手を交差させて足の親指をつかむ。
- ⑤ 両足首を前を通した手でつかむ。（×8）次に手を裏側から通して両足首をつかむ。（×8）手を頭の上に伸ばし足も延ばす。
- ⑥ 右足を上に伸ばし、曲げる。曲げたまま右側に倒し体を開く。背中を床につけながら左側に倒す。（左足も）
- ⑦ 右手だけ20度ぐらい上げてキープ（10秒）**脱力**。左手も。次は両手。右足。左足。両足。両足。
- ⑧ 左を下に体を横にする。手を体の前後に置いて右足を曲げて丹田・恥骨が地面にぴったり着くようにする。そこで呼吸して、息をお尻までためるようにする。（×8）右も。
- ⑨ 掌を下にして上に持っていき、足を曲げて地面にひれ伏す（×8）
- ⑩ 掌と足の位置は変えずに、上体を起こす。背中を丸めてORZのポーズ。（×8）
- ⑪ 今度は胸を思いっきりそらして猫のポーズ（×8） ⑬と⑭（×4）
- ⑫ 片足を上に伸ばして胸もそらす。（×8）足を変える。
- ⑬ 仰向きから腰を支えて両足を上に伸ばす。足をそのまま頭の上の方に倒す。
- ⑭ そのまま腕を体の横から足の先に移動する（×8）
- ⑮ 少しずつ仰向きに戻す
- ⑯ おなかの上に座布団を置いておなかを手で押さえてもらって、座布団を反発するように呼吸する。うつぶせでも同じように行う。

7. 生田式発声法（ピアノ、メトロノーム1拍=80）

- ① 8拍でハミング（ドシラソラシドレミファソラシドレミレドシラソファミレド）
高い音も頑張ってお出す。喉は絞らない。目を開き喉を開き胸を開き、おなかを開けば出ます
- ② 「アー」4-4-8（ドシラソラシドレミファソラシドレミレドシラソファミレド）
「ミ」で「アー」4-4-16、4-4-24、4-4-32、4-4-40、
- ③ ロングトーン 30秒
- ③ 「あえいうえおあお」一息に2拍×8（ミファ#）
- ④ 今度切って「あえいうえおあお」1拍×8+2拍間（ラシ）
- ⑤ うつぶせに寝て、つま先とひじだけで体を支え、おなかを浮かせて「アメンボ」
- ⑥ 仰向けに寝て、両足を15°ぐらいに上げて「アメンボ」

8. ロングトーン

- ・最初は短くてもいいから、喉だけを使わずに、体全体を共鳴体として、倍音を出せるように発声。
 - ・頭が響くと、高い音、上半身が響くと低い音の倍音が出る。
- ・自分の音程で、遠くの人に響くように、最初は口を閉じて、響いてきたら口を縦に開けて「むんーアーーーーーーーー」と15秒以上続ける。目標30秒 ×5

<シアターゲーム>

1. カウントアップ (テンポよく数字を渡す)

<STEP1>

互いの顔が見える位置に立つ。

順に 1,2,3……と数字を数えていく。

「10」まで行ったら一斉にジャンプ、また1からスタート

<STEP2>

「5」の時に両隣りがジャンプ または「3の倍数」でジャンプ

<STEP3>

渡すのを隣りではなく自由に、視線を合わせて手を使って渡す

2. ZIP ZAP POP

a. 5～8人くらいのグループで、
円になって立つ。

b. エネルギーを次々に誰かに受け渡して
いくゲームです。素早く反応し、
エネルギーを爆発させて行るのがポイント。
間違えたりして、止まったら、
そこからまたやり直す。

c. エネルギーを誰かに渡す、三つの方法がある。この三つを使い分けること。
ジップ……隣り合わない相手にエネルギーを渡せる。

片足をその相手の方向に踏みだし、両手の平を合わせて相手に向ける。

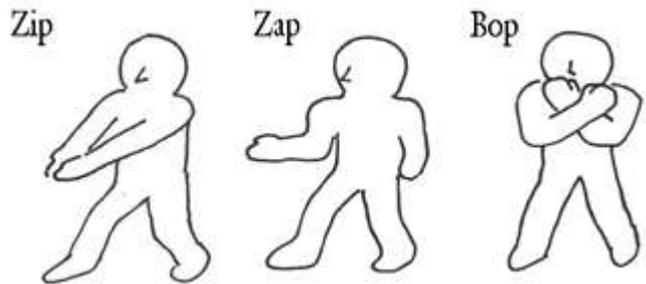
このとき「ジップ！」と叫ぶ。

ザップ……隣りの相手にエネルギーを渡せる。

片足をその相手の方向に踏みだし、相手がいる側の手を横に出して「ザップ！」と叫ぶ。

ポップ……相手からきたエネルギーを直接相手にはねかえせる。

両腕をクロスし、「ポップ！」と叫んで防御する。



3. Don't Blame Me-ドレミゲーム-

a. 円になって立つ。

b. ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ、ドと音程を順にっていく。

途中で誰でも下の「ド」をいってもいい。

そうすると次の人はレから始まる。ドが二人続いてはいけない。そうやって繰り返す。

C. 一定のリズムを保ち、音程を外さないように。

4. 名乗りゲーム

「〇〇です」「〇〇さんとなりの〇〇です」「〇〇さんとなりの〇〇さんとなりの〇〇です」……

5. Concert I -コンサート1-

発声アウェアネス、アンサンブル、アダプテーション

- a. 頭を中心に向け、円状になって、膝を立てて寝そべる。
- b. トレーナーが「Ah～～」と発声すると、皆も同じ音程で「Ah～～」と発声する。
- c. 息が続かなくなったら、違う音程に変えて「Ah～～」と発声し直す。
そうすると、めいめい音程が違う状態になる。
- d. トレーナーが「コンサート」と叫んだ瞬間、全員は音程を合わせなければならない。
全員の音程は揃うが、また息が続かなくなったら、違う音程に変えて声を出す。これを繰り返す。

6. 鬼ごっこ

<STEP1>

鬼を決める→鬼は「相手」を定めて向かう→狙われた「相手」は第3者の名前を叫ぶ
→叫ばれた第3者が新しい鬼となって別にお相手に向かう。

<STEP2>

- a. 二人か、二人以上の鬼を決める。
- b. 残りの人は、鬼に捕まらないように逃げる。
つかまったら、そこから動けない。仲間が股の間をくぐれば解放される。

7. Group Clap-みんなでクラップ-

- a. 円になって、外側を向いて立つ。
- b. 全員で、中指の先だけひっつけた状態でつながる。
- c. 全員、同時に手を叩くことを目指す。
すなわち、指が離れた瞬間を感じとって、クラップする。これが一致すればOK。
円にならず、中指がひっついていれば、蛇行した形でも、座っていてもどんな形でもよい。

8. Zombie Dead-ゾンビー・ゲーム-

- a. 円になって、立つ。ゾンビ役一人が中央に立つ。
- b. ゾンビは両手を前に伸ばした状態で、円の中心から誰かに狙いを定める。
常に、手の先である前を向いている。そして狙いを定めたら、真っ直ぐにその人へ近付く。
- c. 狙われたと思ったら、ゾンビにつかまれる前に誰かにアイコンタクトをする。
アイコンタクトを受けた人は、すぐさま狙われている人の名前を呼ばなければならない。
- d. つかまれる前に名前が呼ばれたら、ゾンビは諦めてまた円の中心に戻り、
新しいターゲットを決める。
- e. つかまれてしまったら、つかまった人が次のゾンビとなって交代する。

発音練習 月木はI) II) 火金はI) III) 水はI) IV)

I) ん ん ん ん ん ん ん ん あ え い う え お あ お

II) か け き く け こ か こ さ せ し す せ そ さ そ

た て ち つ て と た と な ね に ぬ ね の な の

は へ ひ ふ へ ほ は ほ ま め み む め も ま も

や い え い ゆ い え よ や よ ら れ り る れ ろ ら ろ

わ う え う い う う え を わ を

III) が げ ぎ ぐ げ ご が ご か^o け^o き^o く^o け^o こ^o か^o こ^o

ざ ぜ じ ず ぜ ぞ ざ ぞ だ で ぢ づ で ど だ ど

ば べ び ぶ べ ぼ ば ぼ ぱ ぺ ぴ ぷ ぺ ぽ ぱ ぽ

ふあ ふえ ふい ふ ふえ ふお ふあ ふお

きやきえきいきゆきえきよきやきよ ぎやぎえぎいぎゆぎえぎよぎやぎよ

き^oやき^oえき^oいき^oゆき^oえき^oよき^oやき^oよ しやしえししゆしえしよしやしよ

IV) じゃ じえ じゆ じえ じよ じゃ じよ ちや ちえ ちちゆ ちえ ちよ ちや ちよ

にや にえ にい にゆ にえ によ にや によ ひや ひえ ひひゆ ひえ ひよ ひや ひよ

びや びえ びい びゆ びえ びよ びや びよ ぴや ぴえ ぴゆ ぴえ ぴよ ぴや ぴよ

みや みえ みい みゆ みえ みよ みや みよ りや りえ りい りゆ りえ りよ りや りよ

<アイウエオの回転>

あいうえお いうえおあ うえおあい えおあいう おあいうえ あいうえおあお

か・・・ が・・・ か^o・・・ さ・・・ ざ・・・ た・・・ だ・・・

な・・・ は・・・ ば・・・ ぱ・・・ ま・・・ ら・・・ や・・・

※ひらがなは、実は「表音文字」ではありません。細かなところが違います。それを学習しましょう。

【母音の長音化】

二重母音 「エイ」は通常「エー」と発音する。(ただし音節をはっきりと切りたいときは「エイ」となる。)

(例) 政治・経済 セージ ケーザイ 例会 レーカイ 校長先生 コーチャウセンセイ 警察 ケイサツ 生命 セーメイ 丁寧 テーネー 経緯 ケイイ

「エイ！」とエイを釣る 起立！礼！

連母音イイ⇒イー、オオ⇒オー、オウ⇒オーは長母音に発音する。

(例) 大きい弟 オー オート 黄色い狼が横行 キイロ 欧米を応援 応接間で披露宴

(例外) 連続する母音の2つめの母音の前に意味の切れ目があるとき.2音節目にアクセントがあるとき

影絵 小躍り 木苺 場合 荒々しい 生き生きと 赤々と 地位 怪異
食う 救う 引いた 聞いて かしいだ 率いる 用いる 惜しい 美しい 薄々 後押し
おのおの 思う 拾う 潤う うめいた 稼いだ 防いで 滅入る 子牛 体育祭

<例>

空気を食う空間 くーき くう 子牛育成法の講師 披露宴でナイフを拾う
六甲高校校長は、好々爺 こーこーや 生産者の申請書を審査した。
妹の芸名は先生に命名してもらった。スーパー銭湯に行ったことのない人は数パーセントだ。
めいめい慶応明治法政で経営経済学を専攻した経営層。
映画館の経営者は、栄華を極めた推薦映画を上映しようと映画委員会に相談した。
えーか、かん けいえーしや えーか、 すいせんえーか、 じょえー

【母音の弱音声化】 ○で囲みます

・母音のIとUが無声音の子音(K、S、T、H、P)に挟まれたとき

(きく しす ちつ ひふ ぴふ) + (か行 さ行 た行 は行 パ行)

・無声音の子音の後に来る母音が語尾となり、その音節にアクセントがないとき

(例) 《き・く》 《し・す》

北 菊 基礎 口 薬 鹿 舌 少し 捨てる ~です。

《ち・つ》 《ひ・ふ》

力 遅刻 疲れる 机 人 光 深い 吹く

《ぴ・ぷ》

ぴかり ぴしっと ぷっと

<例>

新設診察室視察

(しんせ㊦しんさ㊦し㊦し㊦さ㊦)

ひそひそ話にぴったりのスポットです。 待㊦㊦たびれて七転(し㊦ち㊦てん)八倒㊦ているようです。

隣接する映画館では、ぷくぷく太ったシュテファンが、「天空の城ラピュタ」を見て、ぷりぷりおこっています。ピカピカ光る服を着た人が、疲れ切った視線を落として薬を口に含むと、力なく腰掛けて描きかけの菊を捨てています

茨城県と茨木市にまたがる作品展の会場には、ぴかぴかのシャンデリアが吊ってあり、ふかふかの絨毯が敷かれています。

【濁音】

次の例は単純な濁音です。

① 第1音節に濁音が来たとき

学校 銀行 軍人 牛乳 ゲンコツ 強盗 外車 語尾 芸術

② 複合語

高等学校 朝ごはん お元気

③ 数詞の5

5 x 5 = 25(ごごにじゅうご) 5千5百

④ 外来語・外国語

窓ガラス プログラム リーグ戦 バッグ ガット・ギター

⑤ 擬音語やその繰り返し

ガタゴト ギンギン

【鼻濁音】

カ行には濁音(ガギグゲゴ)のほかに鼻濁音(カ^〇キ^〇ク^〇ケ^〇コ^〇)があります。

鼻濁音の練習は、ガギグゲゴの前にそれぞれ「ん」を入れて発音してみましょう。

次の場合は鼻濁音になります。

① 格助詞、接続助詞の「が」は、常に鼻濁音になる。

ついに今日が、来た。

② 第二音節以降にガ行音が来た場合。

音楽 将棋 道具 懺悔 珊瑚 五月 見事な 山形 乳牛 工芸
輝く 限る 潜る 茂る まごつく 葱 ヤギ ウサギ 大学

③ 複合語として、日本語として、ことばが定着(熟す)している場合。

小学校 中学校 衆議院 参議院 株式会社 巻紙 七五三 七五調
イギリス ハンガー

鼻濁音の練習

蚊か — 画家 — 化学 — 学科
柿 — 楽器 — 鍵 — 器楽 — 議会
賭 — 崖 — 影 — 怪我 — 外科
書く — 額 — 嗅ぐ — 苦学
過去 — 学校 — 駕籠 — 子飼い — 誤解
聞く — ギクリ — 器具 — 釘 — 歯ぐき
聞け — 義兄^{ぎけい} — 機嫌 — 劇
公家 — 愚兄^{ぐけい} — 苦言 — 外宮(ゲクー)
癌 — 銀貨 — 郡部 — 元気 — 権化
気候 — 技巧 — 記号 — 小切手 — 動き
稽古 — 下校 — 華厳 — 高原 — 互惠
花が咲き、木々の緑が輝く五月
学校の窓ガラス越しに、五重の塔が眺められる。

【んの表現】

- ・「電報」の「ん」は、唇を閉じて
- ・「反対」の「ん」は、舌先を前歯ぐき裏につけて
- ・「天地」の「ん」は、舌の奥を丸める
- ・「文学」の「ん」は、舌の中を閉じる
- ・「天使」の「ん」は、口を閉じて鼻から抜く

※アクセントについて

アクセント辞典で調べるのが基本。テレビやラジオのニュースを聞いて学ぶことも大切。
顧問の先生だけでなくいろいろな先生や生徒に先生に聞いてもらって違和感がないか確認する

【若者言葉】

- ・若者言葉は、語尾を上げることが多い。
- ・「文化祭」や「体育祭」「世界史」「ツイッター」など、高校生の生活に密着している言葉は上げる傾向だが、正しくは下げて発音する。
- ・「～ですう。」と語尾を上げるとかなり甘えた表現になる。ドラマの SCRIPT ならあり得るが、アナウンス・朗読では絶対にやってはならない。
- ・「～が、～へ、～に」など、助詞を上げる（強調する）表現は、「小学生読み」や「教員読み」と言って、アナウンス・朗読では絶対にやってはならない。（あまり下げすぎないように）
- ・『頭を下げない』ように。言葉の初めを下げすぎると「うねって」聞こえます。

<例>

- ・文化祭や体育祭で、熱い応援を、全員が熱く語った
- ・4月配布の世界史や日本史の教科書は厚い

【複合語でアクセントが変わるタイプ】

- ・語尾下がりのアクセントも、複合語になると平板読みになることがある

<例>文化を発表する文化祭(↓) 憲法に違反すると憲法違反 スリラー映画の分類はスリラー

- ・あたま下がりも平板読みになる

<例>ソースをかけた焼きそばが、ソース焼きそば

【放送部読みに注意】「エレベータ読み」から「エスカレータ読み」へ矯正しましょう

- ・若者言葉に注意するあまり、放送部員は何でもかんでも下げる傾向にある。

助詞は弱くはするが、余り下げすぎないようにすること。

「皆様をお願いします」・・・「に」であまり下げない。

「全員が」・・・「が」は下げない

ぶんか^{さいや}たいいく^{さいで}、あつ^いおうえんをぜんいんがあ[㊦]か[㊧]た[㊨]った

しが^つはいふのせ^{かい}しゃにほん^しのき^{ょう}か^{しょ}はあ^つい

五十音の歌 (あいうえおのうた) (北原白秋)

<みんなで声を合わせてリズム良く>

ア ア あめんぼ赤いな あいうえお 浮藻に 小えびも泳いでる

カ カ 柿の木栗の木 かきくけこ きつつきコツコツ 枯れケヤキ
(注:「きつつき」の2つ目の「つ」は無声音で発音します。)

サ サ ^{さ さ げ}大角豆に酢をかけ さしすせそ その魚(うお) 浅瀬で刺しました
(注:「ささげ」の「げ」は鼻濁音で発音します。)

タ タ 立ちましょラッパで たちつてと トテトテ立ったと 飛び立った

ナ ナ なめくじノロノロ なにぬねの 納戸(なんど)にぬめって 何ねぼる

ハ ハ 鳩ぽっぽホロホロ はひふへほ 日向(ひなた)のお部屋にや 笛を吹く

マ マ まいまいねじ巻き まみむめも 梅の実落ちてても 見もしまい

ヤ ヤ 焼き栗 ゆで栗 やいゆえよ ^{やまだ ひ}山田に灯のつく 宵の家
(注:「栗」は両方とも鼻濁音で発音します。)

ラ ラ 雷鳥 寒かろ らりるれろ れんげが咲いたら るりの鳥

ワ ワ わいわい わっしょい わるうえを 植木屋井戸がえ お祭りだ
(注:「井戸がえ」の「が」は鼻濁音で発音します。)

※仰向けに寝て、上半身と足を上げてV字になり、発声する

※<アブアイソメトリック>うつぶせに寝て、上半身を肘で支えて、体はまっすぐに。

十二月 田代晁二(リズムよく読みましょう)

終了チェック

正月 / かどごと / かど松 / 日の丸

新年 ことほぎ とそつぐ 親子 羽ご板 たこあげ すご六 あそび

二月 梅が香(こ う) うぐいす 鳴いて

にぎわう 初午(はつうま) そよぐ たてがみ 馬子の よめごの つげぐし かかる

春は 三月 小川が 流れ やなぎが 芽ぐみ めだかが およぐ。

雨後(うご)の かげろう 日傘が ゆれる

四月 にゆうがく 一年 生 てをあげ ハイハイ 国語で す つぎは 体操 白組 あつまれ

五月 端午(たんご) わかばの かげに まわる 矢車

真鯉に 緋鯉 なぎなた すがたの 武者人 形

六月 ながあめ うの花 かぐわし 田ごとに 菅笠(すげがさ) なくほと とぎす

水辺の 草むら ほたるが り

七月 たなばた ザボンの 花かけ

孫抱き あおぐ 天のが わ 牽牛(けんぎゅう) 織女(しよくじょ)の ものがたり

八月 さんごの うみの こどもた ち 水かけ ごっこ もぐりっ こ 岩かけ およぐ 熱たい ぎよ

九月 十五夜 すすきと だんご おとぎ ばなしの かぐやひ め おがむ つきかけ うたごこ ろ

十月 秋ばれ 運どう 会 まりなげ かご入れ 赤ぐみ それゆけ つぎつぎ なげこみ みごと 一等

十一月 は しちごさ ん 鳥居 くぐれば きぎく しらぎく さい銭 あげて 氏神 まいり

十二月 しごと おさめの おおみそ か

かどぐち きよめ しめなわ かかげ ねぎらい のそば 紅白 歌合 戦

☆ラジオ番組「言葉力UP」放送コンテストアナウンス1・2を聞きましょう。

アナウンス『する』ということ（青柳秀侑）

息をつかうことがアナウンスです。

アナウンスをするためには息の使い方が大切です。息は深く吸いましょう。

ですが、深く息を『吸う』ためには、まず「吐く」ことからはじめなければなりません。

吐ききって吸うのです。

ただ吐くのでは、よく分からないので、声をのせるのです。このための練習が「ロングトーン」なのです。

長い声を出すのではなく、深く息を吸うための練習が「ロングトーン」なのです。

息を吐ききって、大きく吸う。声が長く続けばいいというのではないのです。

三十秒ぐらいかけて、一定の量で息を吐きながら声をのせましょう。

正確な発音のアナウンスです。

声を音にしてすべて息に乗せ、ささやかないっきりと声にすること。

大きな声というより、一定の音量で、明確、クリアな『音声』、正確な『音』を作ることが大切です。

そのためには『滑舌』の練習も必要になってきます。

大声で怒鳴らないで下さい。

「アイウエオ」、「アエイウエオアオ」、「イエアオウウオアエイ」など、いろいろありますが、

何を『目的』としているのかを、はっきりと考えながら発音していかないと、

いくら『音』を出し続けても無意味ですね。

『ア』『イ』『ウ』『エ』『オ』日本語の基本は、この「母音」です。

この頃、『ウ』の音が平たくなってしまいがちです。

『リ』、『ニ』などの音も、ぼけやすい音なので

口の周りの筋肉、頬やアゴの筋肉もしっかり使って発音しましょう。

いい声を育てていくのがアナウンスです。

まず、普段使っている『地声』を鍛えましょう。その『声』が、

これからもずーっと、話しやすく聞きやすい『いい声』に育てていくのです。

腹式呼吸と地声のコンビネーションが良くないといい声が出ないのです。

この頃は、マイクの性能が良くなって、どんな声でも拾ってくれますからごまかす事はできます。

ですが、「本物」の声で『勝負』しないと長持ちはしないのです。へこたれてしまうのです。

何かを読み続けることが一番の練習です。

咽喉と声帯を丈夫にする、それが声を育てることなのです。

声を作りすぎて、『地声』が分からなくなったり、かっこつけすぎていやらしく聞こえたり、

『地声』は自分の声、『自声』でもあるのです。

鍛えて育てていけば、誰でも、心にまで響くいい声に育てていくのです。

確かなアクセントがアナウンスです。

一つ一つの、言葉のアクセントは『アクセント辞典』で確かめながら、丁寧にアクセントを身に付けていかなくてはなりません。まるで『語学』なのです。そして、言葉と言葉の関係によっても、アクセントは変化するのです。たとえば、『こころ』に、色々な言葉や助詞をつけてみましょう。法則もありますが、耳を鍛えて、耳からおぼえることも大切です。アクセントの上下の幅は、時代や使う世代によって絶えず変化するものです。臨機応変に、色々な読み方ができるようにしてください。いくつかの言葉がくっついてもアクセントは変化してしまいます。普段から、アナウンサーなどの言葉を聴いて確認して、自分で発声して、アクセントを自分のものにしていきましょう。

聞きやすい『間』がアナウンスです。

文章の意味で切ること、が鉄則です。読んでいる調子で切ったり、自分の癖で切るなどなんとなく切ることはやめましょう。そのためには文章をよく読みこむことが大切です。軽い文の前には、あまり間を取らないこと。

「皆さん、こんにちは。お元気ですか」の、『お元気ですか』の前に長い『間』は要りません。対して、長く連なった文の前には、長い間が必要になってきます。

『皆さん、こんにちは。アナウンスのコツについて皆さんに大事なことを伝えなければなりません』の『アナウンス~』の前には、ちょっと長めの間が必要になるのです。

ただ短くても重要な文の前には、それなりの『間』が必要となるのです。

たとえば、『あなたが、好きです』

一つの文の途中では、息継ぎをしないで、息を止めるだけの『間』もあります。

加えて、息を盗む技術も必要になってきます。息をたくさん吸わず、素早くすこしだけ息を継いで、読み続けることも必要な技術なのです。

マイクの前で話すのがアナウンスなのです。

マイクの性能が向上して、息継ぎの音や、は行の音などの吹いた音も拾います。

響きのいい大きい声というより、無駄のないしなやかな声が、細くともマイクにはあっていたりもします。実際のマイクを使って自分の声を聞きましょう。

そのとき、首を振ると、音声が震えるので注意したいものです。

コンテストの前に急に練習しても、逆に喉を痛め、発声を不安定にさせるだけです。

日常会話を意識的に話すことでも、十分練習となるのです。

「いい声ってなに？」ということをいつも考えましょう。自分の声に興味を持ってください。

アナウンス原稿の作成(海部弘)

まずは腹式呼吸

コンテストでの第一声。ここで発声がちゃんとできていないと、審査員は何も聞いてくれません。

まずは腹式呼吸です。しっかりマイクに乗る声を育てることが第一です。

息をおなかにしっかりためて話します。しかし、腹式呼吸のように、へこまらずに張ったまま話すと落ち着いて張りのある声が出ます。

1に取材 2に取材

アナウンスは校内の明るいトピックスを伝えるものです。そのためには自分の頭の中だけでは原稿は完成しません。想像の産物ではないのです。テーマを決めたらそれに沿って取材をしましょう。校内の生徒・先生はもちろんですが、校外に飛び出して取材するのも有効です。そしてたくさんの材料から、取捨選択して原稿を完成させましょう。

自分の言葉で原稿を書こう

自分の持っているボキャブラリーの中で話すのは当然ですが、発声しやすい言葉にどんどん変えていきましょう。ただここでいっているのは、そういうことだけでなく自分の心からでてくる気持ちを言葉にすることが大切です。これは他人や、教員が指導できるものではありません。そのためには気持ちの「のる題材」を見つけましょう。

自分の主張ではなく、みんなの声を

取材をろくにせず、前から考えていた自分の考え(主張)を蕩々と述べる人がいます。これではいけません。アナウンスは「青年の主張」や弁論大会ではないのです。取材したことをきちんと伝える、これがアナウンスです。ちょっとずるいテクニックですけど、どうしても自分が伝えたいことがあるときは、その事柄を「人にいわせる」ような取材をしましょう

伝えたいことは一つにしよう

取材していると、あれもこれも盛り込みたくなります。しかし時間は1分20秒程度。とても短いです。いいたいことは一つに絞りましょう。二つ以上のテーマは聴いている人が理解できません。

また原稿は400字程度にするのがよいでしょう。

基本は「校内放送」

何をテーマに、誰を対象に、話しているのかわからない人がいます。基本は「校内放送」。ですから対象は自校生徒。自分の学校の話や通学路など学校の周りの話題を考えればよいのです。これが基本ですが、これだけでは発展性がありません。「校内放送」の形をとりながら、外に訴える内容がよいと思います。

明るいトピックスを

暗く落ち込むようなテーマを持つてくる人がいます。そういうテーマをうまくまとめて、一般性のある話題にできれば、それはそれで上位にいけるとは思います。一般的な方法とは言えません。普通はまず、「明るいトピックス」を考えましょう。植物の話題や、部活動の話題など学校にはたくさんテーマが転がっていると思いますよ。また、普段からエポックメイキングな出来事があつたら、取材をしてまとめる習慣をつけましょう。

例「学校が2学期制になった」「海外修学旅行に行った」「全国大会で上位の成績を修めた人がでた」「新聞で紹介されるような生徒(先生)がいる」

スピードは「自然に話す早さ」で

ラジオ・テレビをよく見ている人はNHKと民放では話すスピードが違うことに気づいていると思います。

NHKは比較的ゆっくり、民放は早口です。高校生はどうしたらよいのでしょうか。人に伝えるためには心持ちゆっくりがよいと思います。しかしゆっくり過ぎると違和感が、かなりあります。人に聴いてもらって、内容が伝わる「自然に話す早さ」を身につけましょう。TVのニュースを参考にしてもよいでしょう。また自然な早さで内容を理解させるためには、原稿にも工夫が必要です。わかり易い言い回しにする、省略形を使わない、展開を複雑にしない、一文は短く。等々。参考にしてください。

原稿の書き方

また、原稿の書き方もコツがあります。もちろん提出用の原稿は決まりがありますので指定の様式に従ってください。しかし自分が実際に読む原稿は自由に書いてかまわないのです。読みやすい原稿の書き方に「ちどり書き」というものがあります。縦書きで、「読みの固まり」ごとに、段落を下げていく書き方です。こうすることで、一息で読むべき固まりが解り、内容把握も容易になります。一度自分の原稿を書き直してみたいはいかがですか？

ラジオを聴こう

良質な番組は参考になることが多いです。番組づくり、取材方法、アナウンス技術等吸収できるものはどんどん吸収しましょう。NHK のホームページではアナウンス原稿がそのまま公開されていますので参考にしてください。

原稿は、「リード」「本記」「雑感」「シメ」の四つの部分で出来ています。

「リード」は内容をストレートに伝える。5-10 秒程度です。「本記」は事実をしっかりと伝える。30 秒程度。「雑感」は取材した声を載せる。30 秒程度。「シメ」は呼びかけ。取材した内容からみんなに伝えたいことを書きます。10 秒程度。これを目安に原稿を書いてみてください。

「リード」の例

- ☆『全国高等学校化学グランプリ』の参加者を募集しています。
- ☆高校生が朗読や番組を発表する全国高校放送コンテストが今日から国立オリンピック記念青少年総合センターで始まりました。
- ☆今、生徒会室前の廊下に、県内県外各校の機関誌が置いてあります。
- ☆「日本は首都機能を移転すべし。是か非か。」これは、今月の 14 日に行われる「第 2 回全国ディベート選手権」のテーマです。
- ☆「男同士は嫌だ」体育祭の練習で、こんな声が聞かれました。
- ☆校門をくぐると、一本のしだれ桜が目に入ります。「人權桜」と名付けられたこの若木は、広瀬裕次郎さんとの交流を記念して植えられた物です。
- ☆こんにちは。今日は私達放送部の顧問、生田久志先生の話です。

「シメ」の例

- ☆世界中の人と音楽の素晴らしさを分かち合いたいという吉川さん。「心の音楽」を求めて、今、大きな一歩を踏みだそうとしています。いつの日か、彼女の美しい歌声が、世界中の人々の心に響くといいですね。
- ☆18 歳の今、彼の右腕からは 130 キロの速球が投げ出されます。甲子園を目指す最後の夏が始まりました。
- ☆教科書のないこの学習を通して、私達は今生きる力を磨いています。
- ☆このスプリングコンサート、来年も行われる予定です。どんな趣向をこらすのか、今から楽しみですね。
- ☆こんなに身近にいても気づかない、ハクセキレイ。忙しい私達に、つかの間のやすらぎを与えてくれる彼らに会いに、中庭へ足を運んでみて下さい。
- ☆生田先生は、私達一人一人にも、違った花を咲かせてほしいと願っているようです。
- ☆6 月 3 日、練習で鍛えた強烈なパンチを武器に土山君は高校生活最後のリングに上がります。
- ☆落し物コーナーを一度、のぞいてみて下さい。あなたの大切な物があるかもしれませんよ。

原稿作り

二人ペアで、二人の共通点を 3 分間でたくさん見つける。
「他者紹介」の原稿を作る。10 分で聞き出す。10 分でまとめる。最後には自分の感想を入れる。
90 秒で一斉に読む。追加削除する (3 分) 気持ちをを入れて読む。「。」のところは前に視線を飛ばす。
最後まで力を抜かずに読む。

朗読の基礎

「喜怒哀楽の表現」

キチンと四つの感情を表現できるようにする

「課題文の表現」

課題文がでたらまず黙読。次に試し読み。何回噛んだかをカウント。何回読めば噛まなくなるかを知る。
感情をきちんと表現する
100 文字以内で要約する。

金子みすゞ「おかし」

いたずらに一つかくした弟のお菓子 (かし)。

たべるもんかと思ってて、たべてしまった、一つのお菓子。

母さんが二つっていったら、どうしよう。

おいてみて とってみてまたおいてみて、それでも弟が来ないから、たべてしまった、二つめのお菓子。

にがいお菓子、かなしいお菓子。

朗読の極意【青柳秀侑】

I

朗読の目的は、文章の『意味』を伝えることではありません。その文章によって、展開され、思い起こされ、想像される情景が、聞き手の頭の中にも、くっきりと、浮かびあがらなくてはならないのです。したがって、決して字面だけを追うのではなく、朗読する人は、あらかじめ、自分の中に具体的な情景のイメージを作ってから、説き始めるということではなくてはならないのです。

II

具体的には、たくさんの人に対しての朗読でも、聞き手を一人だけだと想定して、その人に分からせるつもりで読めば、おのずと適切なペースも決まります。聞かせる対象のはっきりしていない読み方は、どんなに明瞭でも、内容がほとんど聞き手に染みてゆくこと、浸透することがないのです。

III

体はリラックスさせて臨みましょう。リラックスさせた状態で読まないで、緊張感を聞き手にも押し付けることになるのです。書かれている文章を明瞭に正確に発音するのが朗読であるというのは、寂しい考え方ではないでしょうか。

IV

一本調子に文章を読んでしまっただけでは、聞き手にはなかなか伝わらないものです。まして、聞き手の『理解』ということを考えない、切れ目のない読み方では、意味ですらもろくに通じません。また、時間が過ぎて行く、場面が変わって行く、などのところでは、当然それなりの『間』が必要になってくるのです。しかし、ただメリハリをつければいいというものでもないのです。それはあくまでも文章の内容に基づいたものであるべきです。内容と結びつかない『調子』や『節』で、必要のない不自然なメリハリをつけるのは、誤りといえるでしょう。

V

文中の登場人物の『セリフ』は、それぞれの人物の感情になって読むことが基本です。しかし、その感情のもとになっている心の動きを、深く読み取ることが必要になってきます。それを忘れないで下さい。『きらい』と書いてあっても『すき』であったり、『ばか』と書いてあっても、怒っていないこともありますね。セリフを読むときに、声色や作り声で読むといやらしく聞こえることが多いようです。それと同じように朗読全体に使う声も、朗読者の持っている声のレンジ、範囲の中から選ぶようにして、決して、借り物の声や、作り声、無理な発声であってはいけないのです。

朗読すること、文章を読むということは、技術的なことも、もちろん大切ですが、それよりもっと大切なことは「聞き手に、何かを聞かせることにより、どうゆう『感動』を興おこさせようとするのか」という、目的意識です。この目的意識のあいまいな朗読は、いかに技術的に優れていても、決して聞き手を『感動』の高みまで羽ばたかせてはくれないのです。

朗読で思いを伝えたい人へ(海部編)

その物語は全部読もう

抽出部分だけを読み込んでも、人を納得させる読みはできません。
物語全体を読んで登場人物の役割を読みとりましょう。
そして抽出部分はどこがよいか、しっかり考えましょう。
量は600字程度が良いと思いますが、内容によって変動しますので注意してください。

読み方は、徹底的に調べよう

漢字の読み方は先入観で思いこんではいけません。時代とともに読み方は変わります。
抽出部分については特に冷静に漢字の読み方を調べましょう。
またアクセント・イントネーションについてもチェックが必要です。
アナウンス辞典を使うのはもちろんですが、できるだけ多くの人に聞いてもらいチェックするのがよいでしょう。

時代背景を調べよう

物語の書かれている時代を調べましょう。また作者がその物語を書いた時代背景についても調べましょう。
そうすることで「読み」に深みが生まれます。

作家について調べよう

作者がほかにどんな作品を書いているかや、プロフィールを調べることはやはり読みの参考になります。
作品はもちろん作者が書いたものですが、「時代が書かせた」とも言えるのです。
作者がどういう目的でこの作品を書いたか、登場人物に自分が言いたかったことをどうやって語らせているかなど、考えることによって抽出部分決める参考になります。

演劇ではありません

自分に酔ってしまっ、演劇のように語ってしまう人がいます。
これではどんなにうまくても「朗読」ではありません。高い評価は得られないと思っていいでしょう。

暗記しない。常に新鮮な気持ちで。

朗読は演劇ではありません。
暗記して目の前で演じるものではないのです。朗読はあくまで目の前で原稿を読むこと。
それだけです。
かといって単に読むだけでは薄っぺらなものになってしまいます。
人に感銘を与える深い読みをするためには、その作品をどれだけ理解するかに懸かっています。
時代背景、登場人物の役割など。調べることはたくさんあります。
暗記するとへんな癖がつき、妙な朗読になることが多いのです。
しかし、もし、もしも暗記するなら、一字一句、すべてのアクセント・イントネーションをそっくりそのまま何度でも同じようにプレイバックできるように、練習を繰り返す必要があります。
実は標準語を普段、話していない地域の学校はこのようにしてNコンを勝ち抜いているのです。
だからこの人たちは初見ではうまく読めない人が多いのです。
普段標準語(に近い言葉)を話している我々はその分プラスなはずですから、集中した読みで気持ちを声に乗せましょう。
他の学校には出せない「新鮮さ」を出しましょう。

自分は醒めている

どんなに「アツイ」文章でも、醒めている自分を残してください。
アツイ文章を伝える醒めた伝い手になってください。
そうすると聞き手にじわじわと感動が伝わってきます。

スピードはゆっくり目に

アナウンスと違って、文章の書かれた背景を聞き手に伝えるのは難しいものです。
そのために残された方法は、ゆっくりかみしめて読むことです。

「」の読み方に注意

「」は登場人物の言葉です。しかし、その人物になりすぎず、しかし間はそれなりにとりましょう。

審査の観点

練習会では、他の部員の審査をすることがあります。その時のポイントです。

1. 姿勢

椅子にはあまり深く腰掛けず、背筋を伸ばして、足は前後に軽く開いて座る。
前傾姿勢は胃を圧迫するのであまりよくありません
審査員や聴衆を意識していることもチェックポイント。読む前や途中で顔を上げます。
マイクには、正面から向かいます。
アナウンスは口角を上げて、微笑みます。
朗読は、内容に合わせて雰囲気を作ります。

2. 読みのスピード

読むスピードは適切か
アナウンスなら1分25秒から29秒。朗読なら1分50秒から58秒を目指しましょう。

3. 上下読み とイントネーション (文章の強弱) 「エレベータ読み」× 「エスカレータ読み」○

アナウンスはなるべく高いところから始めて、だんだん低く読む。急に下げないように！
朗読も基本上下読みだが、強調したいところでアップダウンあり。

4. うねり

変なふしがついたり、思わぬところで上昇したり、上下読みができていない状態。
しかし、表現の仕方によっては、ありうる。

5. リップノイズなど

リップノイズや紙が擦れる音など、しゃべり以外の音が入っていないか、

6. 腹式発声

声が、お腹から出ているか、こもっていないか、のど声、鼻声になっていないか、かすれていないか。

7. アクセント (単語の強弱)

文化祭などアクセントやイントネーションでおかしなところはなかったか。読み間違いはなかったか。

8. 滑舌

一語一語がしっかりと発声・発音されているか。

9. 鼻濁音・無声音

鼻濁するべきところ(文頭でないガ行)は鼻濁し、無声化する(キクシスチツヒフピフ)ところは無声化する

10. 「間」とプロミネンス (強調の方法) 単語の取り出し

意味を考えた「間」になっているか。プロミネンスには「間」「強」「弱」「早」「遅」がある。

11. 語る。伝える。

単に「読んでいる」のはダメ。「小学校読み＝語尾が強い読み」もダメ。伝えるのが大事。
聞いただけで意味が伝わったか

12. 内容

N コンアンパンアナは自校生徒に伝える校内放送原稿。総文祭アナは全国の皆に伝える地域紹介原稿。
アナウンスは、一文はあまり長くしないように。聞いている人にわかりやすいように。
N コン朗読は指定書籍、総文祭朗読は地域に関係した作家
朗読は、なるべく情動的で映像が浮かびやすい場所、会話が20%から30%ぐらいの部分を選ぶ。
部活など、短縮形は使わないようにする。

朗読に挑戦

夏目漱石「坊ちゃん」

おれは何とも云わずに、山嵐の机の上にあった、一銭五厘（りん）をとって、おれの蝦蟇口（がまぐち）のなか1へ入れた。山嵐は君それを引き込（こ）めるのかと不審（ふしん）そうに聞くから、うんおれは君に奢（おご）られるのが、いやだったから、是非返すつもりでいたが、その後だんだん考えてみると、やっぱり奢ってもらう方がいいよだから、引き込ますんだと説明した。山嵐は大きな声をしてアハハハと笑いながら、そんなら、なぜ早く取らなかつたのだと聞いた。実は取ろう取ろうと思ってたが、何だか妙（みょう）だからそのままにしておいた。近来は学校へ来て一銭五厘を見るのが苦になるくらいいやだったと云ったら、君はよっぽど負け惜（お）しみの強い男だと云うから、君はよっぽど剛情張（ごうじょうっぱ）りだと答えてやった。それから二人の間にこんな問答が起（おこ）つた。

「君は一体どこの産だ」

「おれは江戸（えど）っ子だ」

「うん、江戸っ子か、道理で負け惜しみが強いと思った」

「きみはどこだ」

「僕は会津（あいづ）だ」

「会津っ婆か、強情な訳だ。今日の送別会へ行くのかい」

「行くとも、君は？」

「おれは無論行くんだ。古賀さんが立つ時は、浜（はま）まで見送りに行こうと思ってるくらいだ」

「送別会は面白いぜ、出て見たまえ。今日は大いに飲むつもりだ」

「勝手に飲むがいい。おれは肴（さかな）を食ったら、すぐ帰る。酒なんか飲む奴は馬鹿（ばか）だ」

「君はすぐ喧嘩（けんか）を吹（ふ）き懸（か）ける男だ。なるほど江戸っ子の軽跳（けいちょう）な風を、よく、あらわしてる」

「何でもいい、送別会へ行く前にちょっとおれのうちへお寄り、話（はな）しがあるから」

金子みすゞ「月の出」

だまって　だまって　ほうら、出ますよ。

お山の　ふちが　ぼうっと明（あか）るよ。

お空の　底と　海の底とに、　なにか　光りが　溶（と）けていますよ。

金子みすゞ「こだまでしょうか」

「遊ぼう」っていうと　「遊ぼう」っていう。

「馬鹿（ばか）」っていうと　「馬鹿」っていう。

「もう遊ばない」っていうと　「遊ばない」っていう。

そうして、あとで　さみしくなって、「ごめんね」っていうと　「ごめんね」っていう。

こだまでしょうか、　いえ、誰（だれ）でも。

宮沢賢治「セロ弾きのゴーシュ」

そのとき誰（たれ）かうしろの扉（と）をとんとんと叩（たた）くものがありました。

「ゴーシュ君か。」ゴーシュはねぼけたように叫（さけ）びました。ところがすうと扉を押（お）してはいつて来たのはいままで五六ぺん見たことのある大きな三毛猫（みけねこ）でした。

ゴーシュの畑からとった半分熟したトマトをさも重そうに持って来てゴーシュの前におろして云いました。

「ああくたびれた。なかなか運搬（うんぱん）はひどいやな。」

「何だと」ゴーシュがききました。

「これおみやです。たべてください。」三毛猫が云いました。

ゴーシュはひるからのむしゃくしゃを一ぺんにどなりつけました。

「誰がきさまにトマトなど持ってこいと云った。第一おれがきさまらのもってきたものなど食うか。それからそのトマトだっておれの畑のやつだ。何だ。赤くもならないやつをむしって。いままでもトマトの茎（くき）をかじったりけちらしたりしたのはおまえだろう。行ってしまえ。ねこめ。」

すると猫は肩（かた）をまるくして眼をすぼめてはいましたが口のあたりでにやにやわらって云いました。

「先生、そうお怒りになっちゃ、おからだにさわります。それよりシューマンのトロメライをひいてごらんなさい。きいてあげますから。」

「生意気なことを云うな。ねこのくせに。」

セロ弾きはしゃくにさわってこのねこのやつどうしてくれようとしばらく考えました。

「いやご遠慮（えんりょ）はありません。どうぞ。わたしはどうも先生の音楽をきかないとねむられないんです。」

「生意気だ。生意気だ。生意気だ。」

ゴーシュはすっかり真っ赤になってひるま楽長のしたように足ぶみしてどなりましたがにわかに変えて云いました。

「では弾くよ。」ゴーシュは何と思ったか扉（と）にかぎをかって窓もみんなしめてしまい、それからセロをとりだしてあかしを消しました。すると外から二十日過ぎの月のひかりが室（へや）のなかへ半分ほどはいつてきました。

「何をひけと。」

「トロメライ、ロマチックシューマン作曲。」猫は口を拭（ふ）いて済まして云いました。

「そうか。トロメライというのはこういうのか。」

セロ弾きは何と思ったかまずはんげちを引きさいてじぶんの耳の穴へぎっしりつめました。それからまるで嵐（あらし）のような勢（いきおい）で「印度（インド）の虎狩（とらがり）」という譜を弾きはじめました。

すると猫はしばらく首をまげて聞いていましたがいきなりパチパチパチッと眼をしたかと思うとぱっと扉の方へ飛びのきました。そしていきなりどんと扉へからだをぶっつけましたが扉はあきませんでした。猫はさあこれはもう一生一代の失敗をしたという風にあわてだして眼や額からぱちぱち火花を出しました。するとこんどは口のひげからも鼻からも出ましたから猫はくすぐったがってしばらくくしゃみをするような顔をしてそれからまたさあこうしてはられないぞというようにはせあるきだしました。ゴーシュはすっかり面白（おもしろ）くなってますます勢よくやり出しました。

「先生もうたくさんです。たくさんですよ。ご生ですからやめてください。これからもう先生のタクトなんかとりませんから。」

「だまれ。これから虎をつかまえる所だ。」猫はくるしがってはねあがってまわったり壁にからだをくっつけたりしましたが壁についたあとはしばらく青くひかるのでした。しまいは猫はまるで風車のようにぐるぐるぐるぐるゴーシュをまわりました。

ゴーシュもすこしぐるぐるして来ましたので、

「さあこれで許してやるぞ」と云いながらようようやめました。

すると猫もけろりとして

「先生、こんやの演奏はどうかしてますね。」と云いました。

【寿限無】

八つつあんは かわいいお嫁さんをもらいましたが、なかなか子供が生まれませんでした。

でも、町のお地蔵さんに熱心にお参りしているうちに、ついに子供を授かり、男の子が生まれました。

丈夫で長生きするような名前を付けてもらおうと、お寺の和尚さんに相談しました。

そうしたら「寿量品（じゅりょうひん）」というお経の文句や、故事来歴などを聞かされて、あれを付けてこれを付けていないと、あとで後悔するようなことにならないように、教えてくれたことを全部名前に付けたので「寿限無 寿限無 五劫の擦り切れ 海砂利水魚の水行末 雲来末 風来末 食う寝るところに住むところ やぶら小路のぶら小路 パイポパイポパイポのシューリンガン、シューリンガンのグーリンダイ、グーリンダイのポンポコピーのポンポコナーの長久命の長助」という、とんでもない長い名前ができてしまいました。

この名前がよかったのか、元気にすくすくと成長して、ある日のこと、「おじさんのとこの、寿限無 寿限無 五劫の擦り切れ 海砂利水魚の水行末 雲来末 風来末 食う寝るところに住むところ やぶら小路のぶら小路 パイポパイポパイポのシューリンガン、シューリンガンのグーリンダイ、グーリンダイのポンポコピーのポンポコナーの長久命の長助にぶたれて、こんな大きなこぶができたあ！」と、喧嘩友だちの子が泣いてきました。

「ちょいと、お前さん、うちの、寿限無 寿限無 五劫の擦り切れ 海砂利水魚の水行末 雲来末 風来末 食う寝るところに住むところ やぶら小路のぶら小路 パイポパイポパイポのシューリンガン、シューリンガンのグーリンダイ、グーリンダイのポンポコピーのポンポコナーの長久命の長助が、金ちゃんの頭ぶって大きなこぶを、こさえちまったんだってさあ」

「なに、うちの寿限無 寿限無 五劫の擦り切れ 海砂利水魚の水行末 雲来末 風来末 食う寝るところに住むところ やぶら小路のぶら小路 パイポパイポパイポのシューリンガン、シューリンガンのグーリンダイ、グーリンダイのポンポコピーのポンポコナーの長久命の長助が、金坊の頭ぶってこぶをこさえたって？どれどれ・・・なんだ、コブなんてないじゃないか。」

「あまりに名前が長いからコブが引っ込んじまいやがった」

おあとがよろしいようで

【バナナのたたき売り】

さあさあ門司港名物 バナナのたたき売り 御用とお急ぎでない方は 見てらっしゃい聞いてらっしゃい
春よ三月春雨に 弥生のお空に桜散る 奥州仙台伊達公が 何故にバナちゃんにほれなんだ

バナちゃんの因縁を聞かそうか 生まれは台湾台中の 阿里山麓の片田舎 土人の娘に見染められ
ボーッと色気のさすうちに 国定忠治じゃないけれど 一房二房もぎとられ 唐丸籠にとつめられて
阿里山麓をあとにして ガタゴトお汽車にユスられて 着いた所が基隆（キールン）港 基隆港を船出して
金波銀波（ギンギン）の波を越え 海原遠き船の旅 艱難辛苦のあかつきに ようやく着いたが門司ミナト
門司は九州の大都会 仲仕（なかし）の声も勇ましく エンヤラドッコイ掛声で 問屋の室に入れられて
夏は氷で冷やされて 冬はタドンでうむされて 八〇何度の高熱で 黄色のお色気付いた頃

バナナ市場に持ち出され 一房なんぼのタタキ売り サアサア買うたサア買うた

こういうバナちゃん六〇〇円 買わなきゃ五九五八か 五んぱちゃ昔の色男 それにほれたが小むらさき
五八高かけりゃ五五か ゴンゴン鳴るのは鎌倉の 鎌倉名物鐘の音が かねが物言う浮世なら

奥州仙台伊達公に 何故に高尾がほれなんだ も一つ負けとけ^{ごうち}五^ご一^{いち}か 吾市馬関（ばかん）で腹を切る
五〇^{ごまる}負けて四九か お次を負けて四八か 四八ちゃ久留米の連隊で いつも戦に勝ちどうし

私しのバナちゃん負けどうし そら冗談そらうそよ ハイハイありがとさんハイハイ

サアサア売れたサア売れた 今の兄ちゃん有難うさん コウいうバナちゃん買う兄ちゃん

末は博士か大臣か 青年団なら団長さん これも負けとけ三五か 買わなきゃ三四三三か
三三九度のさかずに 新郎新婦が出来あがり こんな目出度いことはない
ついでに負けとけ二八か 年は二八か二九の 江戸で云うなら玉川の 京で云うなら加茂川の
水にさかせしあら玉の 私のバナちゃん買いなはれ 色は少々黒いけど 味は大和の吊るし柿
一皮むけば雪のはだ 小野の小町じゃあるまいか 照手姫じゃあるまいか 裏も表もきんきらきん
そら冗談そらそうね 始めがあって終わりなし
サアサアコウタサアコウター ハイハイアリガトサン アリガトサン

【金明竹】

「定吉……、定吉……」

「へい、旦那さんあの、何でございます？」

「あなた、何をしておりますのじゃ？」

「表の、掃除をしておりますので」

「それは見たら分かったある、天気がええというのに水も撒かんと掃除をしてる、またこれ、こっちへ掃き込んでくるもんやさかい、見てみい、店の中、砂だらけになったあるやないかい。『掃除をするときには水を撒きなはれ』と、何べん言うたら分かりますのじゃ。もお表の掃除はええさかいに、二階へ上がって、座敷の掃除をきなはれ」

「へえ〜いッ。」

「はあ〜ッ、昔の人はええこと言うたあるなあ『人を使うは苦を使う』ちゆな、あらホンマやなあ、あんな子、一人でも一人前にしょ〜と思たら、たいがいのこっちゃないで……、冷たあ！ 天井からポタポタ水が漏り出したがな、何をしてんねん……」

「これ定吉、何をしてなはんねん？」

「掃除する前でっさかいに、水を撒いてます」

「降りて来なはれ、なんで座敷で水を撒かないかん。もおその掃除はええさかい、そこで店番をきなはれ」

「へえ〜いッ。」

「あ〜あ、もお朝から怒られ通しやがな『水撒け、水撒け』言うさかい水撒いただけやのに、何であんな怒られないかんねやろ。あッ、雨や、にわか雨や、ぎょ〜さん降ってきたなあ。皆、傘持ってへんさかいらい走りまわっとるがな。あッ、表に人が立ちはったなあ、言うたろかいなあ……、あのすまへん、そこの人」

「はいはい、丁稚さん何です？」

「そんなとこ立たれたら、商売の邪魔になりますので退(の)いてもらえまへんか？」

「こらえらいすいまへん、いや、急に雨降ってきましたやろ、わたい傘持ってしまへんねん、ほいで、お宅の軒下拝借しとりました。」

「傘、持ってはらしまへんのん？ ほなら貸したげまひよか」

「よろしいか？」

「へえへえ、どれでも好きなん持っていきなはれ」

「さよか、ほな、これお借りしますおおきに、さいならごめん……」

「定吉、表で声がしたが、どなたぞ来なはったんと違うか？」

「あのお、急に雨が降ってきました、表に人が立ちはったんです。『傘持ってへん』ちゆうさかい、わたい貸したげました。」

「おおお、傘をお貸しするというのは親切なことや、どこのどなたにお貸したんや？」

「え？ 知らん人です」

「ちょっと待ちなはれ、知らん人に物貸して返ったためしないねやで。あのな、そおいうときは断りなはれ」

『『お前なんか貸したるかいつ！』』といえ、よかつたですか？」

「それでは子どもの喧嘩やがな、うちはこおして店を出して商売をしてる、いつどこで誰に世話になるやも分からんねやさかいに、そおいうときは丁寧に『うちにも貸し傘が何本かございましたが、こないだからの長雨で、骨は骨、紙は紙、バラバラになって使いもんになりません。しかたがないので、いずれ焚き付けにでもしよおと思おて物置に放り込んであるので、お貸しする傘がございません』と、こない言うて断ったらよろしい。分かりましたな？」

「へえ〜いッ。」

「え〜、ちょっとごめんやす」

「はいはい、何です？」

「わたいな、表通りの最上屋から来ましたんでっけども、うちに大きなネズミ出て困ってまんねやがな、聞いたらお宅、ネズミよお取るネコがいてんねやそおで、すんまへんけどネコ貸してもらえまへんか？」

「ネコ、借りにきたんでっか？ うちにもね、貸しネコが何匹かいてました。貸しネコ？ こないだからの長雨で、骨は骨、皮は皮、バラバラになって使いもんになりません。しかたがないので、いずれ焚き付けに……」

「お宅、ネコ焚き付けにしてまんのか？ えらい店やなあ、分かりました諦めます、さいならごめん……」

「定吉、表で声がしたが、どなたぞ来なはったんと違うか？」

「あの、最上屋さんがね『ネコ、貸してくれ』ちゅうて」

「おおお、それやったらうちのタマを貸してやったらええやないかい」

「わたい、断りました」

「断ったて、どない言うて？」

「うちにも貸しネコが何匹か……」

「こらこら『貸しネコ』と言うやつがあるかい」

「こないだからの長雨で、骨は骨、皮は皮、バラバラになって使いもんになりません。しかたがないのでいずれ焚き付けに……」

「お前、何ちゅうことを言うてん『ネコを焚き付けにする』て、どんな店やと思われ……。あのなあ、ネコを断るのはまた別やがな『うちにもノラが一匹いとおりましたが、こないだから盛りが付いてうちによおジ〜としてまへん。こないだ三日ぶりに戻って来たと思たら、どこぞゴミ箱で腐ったエビの荒でも食べたんでっしゃろ、毛えは抜けてるわ、腰は抜けてるわで、もお使いもんになりません。しかたがないので、今、奥でマタタビを舐めさせて寝かしてございます』と、こない言うて断ったらよろしい。分かりましたな。」

「へえ〜いッ。」

「え〜、ちょっとお邪魔をいたします」

「また人が来たがな、よお人来るなあ。あのお、何です？」

「わたし、十七屋から来ましたんでやすが、手前どもに新しい道具が入りまして、どおもこの我々では目の利かんものがございまして、旦那にご鑑定をお願いしたいと思おして。」

「あのお、何です？」

「丁稚さんでは分からんかなあ、つまりね、お宅の旦那をお借りしたい」

「ああああ、旦那を借りに来たんでっかいな、うちにもね、ノラの旦那が……」

「ノラの旦那？」

「こないだから盛りが付いて」

「あの旦那に盛りが？」

「うちによおジ〜ッとしてまへんねん。こないだ三日ぶりに戻って来たと思たら、どこぞのゴミ箱で腐ったエビの荒でも食べたんでっしゃろなあ、毛えは抜けてるわ、腰は抜けるてるわで、もお使いもんになりまへんねん。しかたがないので、今、奥で股に足袋履かして寝かしてます。」

「さよかあ〜、ちょっとも存じまへんねやがな、分かりました、皆に言うてきます、さいならごめん……」

「定吉、また表で声がしたが、どなたぞ来なはったんと違うか？」

「十七屋さんが」

「ああああ、それやったら道具の目利きと違うのんか、なぜわしを呼ばん？」

「わたい、断りました」

「また断った？ 嫌な予感がするんやけど……、どない言うて断った？」

「うちにもノラの旦那が一匹」

「一匹？」

「こないだから盛りが付いて、うちによおジ〜ッとしてまへん。こないだ三日ぶりに戻って来たと思たら、どこぞのゴミ箱で腐ったエビの荒でも食べたんでっしゃろなあ、毛えは抜けてるわ、腰は抜けてるわで、もお使いもんになりまへん。しかたがないので、今、奥で股に足袋履かして寝かしてます。と申しました。」

「みな言うたんかいな、それを……、表、歩かれへんがな。わたしはこれから直(じか)に行て断りを言うてきます。そなた、そこでジッとしてなはれ、これから誰が来ても勝手なことをしてはいかん。そおいうときはうちのやつを呼びなはれ、分かりましたな？」

「へえ〜いッ。」

「え〜、ちょっとごめんやす」

「よお人の来る店やなあせやけど……、あのお、何です？」

「わたいなあ、松屋町(まっちゃんまち)の加賀屋佐吉方から参じましたんやが、先度(せんど)、仲買の弥市(やいち)が取り次ぎました道具七品(ななしな)のうち、祐乘(ゆうじょう)光乘(こうじょう)宗乘(そうじょう)三作の三所物(みどころもん)。ならびに備前長船(びぜんおさふね)の則光(のりみつ)、四分一(しぶいち)ごしらえ横谷宗珉(よこやそうみん)小柄(こづか)付きの脇差ナ、あの柄前(つかまえ)は旦那はんが古たがやと言やはったが、あれ埋れ木(うもれぎ)やそうで、木い〜が違(ちご)うておりますさかいにナ、念のため、ちょっとお断り申します。《だんだんと早口に》次はのんこの茶碗、黄檗山金明竹(おうぼくさんきんめいちく)ずんどの花活(はなひけ)、古池や蛙とびこむ水の音と申します・・・ありや、風羅坊正筆(ふうらぼうしょうひつ)の掛け物、沢庵木庵隠元禅師(たくあん・もくあん・いんげんぜんじ)張りませの小屏風(こびょうぶ)、あの屏風はなアもし、わたの旦那の檀那寺(だんな)が兵庫におましてナ、へイ、《ひどく早口で》その兵庫の坊主の好みませ屏風じゃによって、表具にやり、兵庫の坊主の屏風になりますとナ、かよう、お言伝え願いまあ。と、かよおお伝えを願いたいんで。」

「はあ〜ッ、あんたえらいべらべら口動いてオモロイ人でんなあ、あのねえ、銭やるさかい、もっぺん言うて？」

「アホなこと言いなほんな、この店にはもっとしっかりした人いてまへんのんか？」

「え？ しっかりした人、それやったらね『うちのやつ』呼びますわ、うちのやつを。もし、御寮人(ごりょん)さん、御寮人さん。」

「何やねんな、大きな声出して……、え？ お客さん？ それを早いこと言わなあかんがな……、お待たせをいたしました、何ぞご用事で？」

「こおら、お家はんだっか、わたいなあ、松屋町(まっちゃんまち)の加賀屋佐吉方(さきちかた)から参(ま)じましたんやが、先度(せんど)、仲買(なかがい)の弥一(やいち)が取

り次ぎました道具ななしな七品のうち、祐乗ゆうじょう・光乗こうじょう・宗乗そうじょう、三作の三所物みどころもん。ならびに備前おきふね長船の則光よこやそうみん。横谷宗珉しづいち、四分一よつぶんこしらえ、小柄付きこづかの脇差。あら、柄前つかまえがタガヤサンやとの仰せにございましたが、埋もれ木やそおにございまして木が違っておりますので、この旨むねちょっとお断りを申しあげます。ならびに、黄檗山金明竹おうぼくさんきんめいちく、寸胴切りの花活はないきけ。のんこの茶碗ちawan。古池かわずや蛙飛び込む水の音、と申しますこれは風羅坊芭蕉ふうらばしやう、正筆しょうしつの掛け物でございまして。沢庵たくあん禅師の一行物いちぎやうもんには隠元いんげん・木庵もくあん・即非そくひ、張り交ぜの小屏風こびんぷう。こら、うちの旦那だんなの檀那寺だんなでらが兵庫にございまして、この兵庫の坊主のえらい好みする屏風びんぷうじゃによって、表具ひょうぐへやって兵庫の坊主の屏風にいたしました。と、かよおお伝えを願いたいんで。」

「あ、さよかあ～……、これッ、お客さんが来てまっしゃないか、早いことお茶を出しなはれ。」

「いえ、お茶はどおでもよろしまんねんけどもね、今の言付け分かってもらえましたか？」

「あの、ちょっとこれに小言を言うておりましたもので、ほんの二、三聞き逃したところがございます。もっぺん言うてもらえまへんやろか？」

「また言いまんのん……、わたい、口の中カラカラでんねんけどもなあ。ほならもっぺんだけ言いますよってに、良お聞いとくなはれよろしいか…… わたくしは、まっちゃまぢの、かがやさきちかたから、さんじましたんやが、せんど、なかがいの、やいちがとりつぎました、どおぐななしなのうち祐乗ゆうじょう・光乗こうじょう・宗乗そうじょう、三作の三所物みどころもん。ならびに備前長船おきふねの長船ながふねの則光よこやそうみん。横谷宗珉しづいち、四分一よつぶんこしらえ、小柄付きこづかの脇差。あら、柄前つかまえがタガヤサンやとの仰せにございましたが、埋もれ木やそおにございまして木が違っておりますので、この旨むねちょっとお断りを申しあげます。ならびに、黄檗山金明竹おうぼくさんきんめいちく、寸胴切りの花活はないきけ。のんこの茶碗ちawan。古池や……、聞いてはりまっか？ 続けてよろしいか？ 古池かわずや蛙飛び込む水の音、と申しますこれは風羅坊芭蕉ふうらばしやう、正筆しょうしつの掛け物でございまして。沢庵たくあん禅師の一行物いちぎやうもんには隠元いんげん・木庵もくあん・即非そくひ、張り交ぜの小屏風こびんぷう。こら、うちの旦那だんなの檀那寺だんなでらが兵庫にございまして、この兵庫の坊主のえらい好みする屏風びんぷうじゃによって、表具ひょうぐへやって兵庫の坊主の屏風にいたしました。と、かよおお伝えを願いたいんで。」

「あ、さよかあ～……、これッ、お客さんが来てまっしゃないか、早いことお茶を出しなはれ」

「いえ、お茶はどおでもよろしまんねんけどもね、今の言付け分かってもらえましたか？」

「あの、ちょっとこれに小言を言うておりましたもので、ほんの二、三聞き逃したところがございます。もっぺん言うてもらえまへんやろか？」

「また言いまんのん……、わたい、口の中カラカラでんねんけどもなあ。ほならもっぺんだけ言いますよってに、良お聞いとくなはれよろしいか…… わたくしは、まっちゃまぢの、かがやさきちかたから、さんじましたんやが、せんど、なかがいの、やいちがとりつぎました、どおぐななしなのうち祐乗ゆうじょう・光乗こうじょう・宗乗そうじょう、三作の三所物みどころもん。ならびに備前長船おきふねの長船ながふねの則光よこやそうみん。横谷宗珉しづいち、四分一よつぶんこしらえ、小柄付きこづかの脇差。あら、柄前つかまえがタガヤサンやとの仰せにございましたが、埋もれ木やそおにございまして木が違っておりますので、この旨むねちょっとお断りを申しあげます。ならびに、黄檗山金明竹おうぼくさんきんめいちく、寸胴切りの花活はないきけ。のんこの茶碗ちawan。古池や……、聞いてはりまっか？ 続けてよろしいか？ 古池かわずや蛙飛び込む水の音、と申しますこれは風羅坊芭蕉ふうらばしやう、正筆しょうしつの掛け物でございまして。沢庵たくあん禅師の一行物いちぎやうもんには隠元いんげん・木庵もくあん・即非そくひ、張り交ぜの小屏風こびんぷう。こら、うちの旦那だんなの檀那寺だんなでらが兵庫にございまして、この兵庫の坊主のえらい好みする屏風びんぷうじゃによって、表具ひょうぐへやって兵庫の坊主の屏風にいたしました。と、かよおお伝えを願いたいんで。」

「まッ、さよかあ～ッ、ご飯の仕度を……」

「『ご飯』て、あんた、そんなことしてられまっかいな、今の言付けよろしゅ～お伝え願います、さいならごめん」

「あ、ちょっと待っとくはなはれ、もし、もしい〜ッ……行ってしもたやないの、あんたが早いこと支度せえへんさかい、お客さん帰ってしもたがな、お茶出して、ご飯出して、あと十ぺんは言わそと思てたのに。何を言うてたんやさっぱり分からなんだわ。」

「ただいま」

「お帰りやす」

「わしの留守に誰か来なんだか？」

「あのお、一人お見えになりました」

「誰が来た？」

「それがあのお、松屋町の加賀屋さんそこから……」

「ほおほお、加賀屋さんが来たんか？」

「仲買の弥一さんかも知れません」

「弥一が来たんか？」

「それがよお分からんのでございますが、その弥一さんが備前へお行きになりました。」

「弥一が備前へ？ ほおほお、それで？」

「向こおで遊女を揚げまして、それがえらい孝女で掃除が好きなんやそおでございます。で、弥一さんの気が違ごおたとか」

「ええ〜ッ、弥一が？」

「で、遊女が寸胴切りにして」

「弥一、人殺してんのかいな」

「いえ、もお何しろ、その、何を言うてもノンコノシャ〜で インゲン食べるやらタクワンかじるやら、そこへ坊主が出て来て……」

「なんで坊主が出て来んねん？」

「それがよお分からんのでございますが、その坊主の後ろに屏風があったんでございます。その屏風の後ろに坊主がおりました。で、その後ろに屏風があつて、坊主がおつて、屏風があつて……、これは何？」

「分からんなあ、それでは……。それでは話の察しよおがないなあ。もお少しハッキリしたところはないのんかい？」

「ハッキリしたとこ……。弥一さんが古池に飛び込んで死にました。」

「ええ〜ッ、弥一が古池に飛び込んで死んだ？ おいおい、何をすんねんな、あいつには道具七品というもんを預けてあつて、ちゃ〜んと買おてくれよと頼んであつたのに、買おたんやろか？」

「いいえ、買わずに飛び込みました。」（蛙とのシャレでオチ）

合羽が番合羽か、貴様のきやはんも皮脚絆、我等がきやはんも皮脚絆。しっかわ袴のしっぽころびを、三針はりながにちよと縫うて、ぬうてちよとぶんだせ。かわら撫子野石竹。のら如来のら如来、三のら如来に六のら如来。一寸先のお小仏におけつまつきやるな。細溝にどじよによるり。京のなま鱈奈良なま学鯉、ちよと四、五貫目。お茶立ちよ茶立ちよ、ちやつと立ちよ茶立ちよ。青竹茶箭でお茶ちやつと立ちちやつ。

来るわ来るわ何が来る、高野の山のおこけら小僧。狸百匹箸百膳、天目百杯棒八百本。武具馬具武具馬具三武具馬具、合せて武具馬具六武具馬具。菊栗菊栗三菊栗、合せて菊栗六菊栗。麦こみ麦こみ三麦こみ、合せて麦こみ六麦こみ。あの長押の長薙刀は誰が長薙刀ぞ。向うの胡麻がらは荏の胡麻がらか真こまがらか、あれこそほんの真胡麻がら。がらびいがらびい風車、おきやがれこぼし、おきやがれこぼし、ゆんべもこぼして又こぼした。たあぶぼぼたあぶぼぼ、ちりからちりからつつたつぽ。たつぽたつぽ一丁だこ、落たら煮て食お、煮ても焼ても食われぬ物は五徳鉄きゆうかな熊童子に、石熊石持、虎熊虎きす。中にも東寺の羅生門には、茨木童子がうで栗五合つかんでおむしやる、かの頼光のひと元去らず。

鮒きんかん椎茸、定めて後段なそば切りそうめん、うどんか愚鈍な小新発地。小棚の小下の小桶に小みそがこ有るぞ、小杓子こ持つて、こすくつてこよこせ、おっと合点だ、心得たんぼの川崎、神奈川、程ヶ谷、戸塚は走って行けば、やいとを摺りむく三里ばかりか、藤沢、平塚、大磯がしや、小磯の宿を七ツ起きして、早天早々、相州小田原透頂香。隠れござらぬ貴賤群衆の花のお江戸の花ういろう、あれあの花を見てお心をおやわらぎやという、産子這子に至るまで、此の外郎の御評判、ご存じないとは申されまいつぶり、角出せ棒だせ、ぼうぼうまゆに、臼杵すりばち、ばちはちぐわらくわらくわらと、羽目を弛して今日お出のいずれも様に、上げねばならぬ売らねばならぬと、息せい引つぱり、東方世界の薬の元々、薬師如来も照覧あれと、ホホ敬つて、ういろうはいらっしやりませぬか。

外郎売り

拙者親方と申すは、お立合の中に、ご存知のお方もござりましようが、お江戸を発つて二十里上方、相州小田原一色町をお過ぎなされて、青物町を登りへお出なさるれば、欄干橋虎屋藤衛門只今は剃髮致して、円齊となのります。元朝より大晦日まで、お手に入れます此の薬は、昔ちんの国の唐人、外郎という人、わが朝へ来り、帝へ参内の折から、此の薬を深く籠め置き、用ゆる時は一粒ずつ、冠のすき間より取り出す。依つてその名を帝より、透頂香と賜る。則ち文字には「頂き、透く、香い」と書いて、「とうちんこう」と申す。只今は此の薬、殊の外世上に弘まり、方々に似看板を出し、イヤ、小田原の、灰俵の、さん俵の、炭俵のといろいろに申せども、平仮名をもって「ういろう」と記せしは親方円齊ばかり。もしやお立合いの内に、熱海か塔ノ沢へ湯治にお出なさるか、又は伊勢御参宮の折からは、必ず門違いなされますな。お登ならば右の方、お下なれば左側、八方が八つ棟、おもてが三つ棟玉堂造り、破風には菊に桐のとうの御紋を御赦免有つて、系図正しき薬でござる。

イヤ最前より家名の自慢ばかり申しても、ご存じない方には、正身の胡椒の丸呑、白川夜船。さらば一粒食へかけて、其の気味合をお目に懸ましよう。先ず此の薬をかように一粒舌の上へのせまして、腹内へ納ますると、イヤどうもいえぬは、胃、心、肺、肝がすこやかになりて、薰風咽より来り、口中微涼を生ずるが如し。魚鳥、茸、麵類の喰合せ、其の他、万病速功あること神の如し。さて、此の薬、第一の奇妙には、舌のまわる事が、銭ゴマがはだして逃げる。ひよつと舌がまわり出すと、矢も楯もたまらぬじや。

そりやそりや、そらそりや、まわつてきたわ、まわつてくるわ。あわや咽、さたらな舌に、か牙さ歯音。ハマの二ツは唇の軽重、開合さわやかに、あかさたなはまやらわ、おこそこのほもよろを、一つへぎへぎに、へぎほしはじかみ、益まめ益米益こぼう。摘蓼つみ豆つみ山椒。書写山の社僧正。粉米のなまがみ、粉米のなまがみ、こん粉米の小なまがみ。縹子ひじゆす、縹子縹珍、親も嘉兵衛子も嘉兵衛、親かへい子嘉へい、子かへい親かへい。古栗の木の古切口。雨